

文珍さんの落語的見聞録

- [1] 「野球も選挙も米国が気になる」 2024.10.17 神戸新聞朝刊連載より転記
- [2] 「戻ってきて気になる」 2024.11.17 神戸新聞朝刊連載より転記

■ 文珍さんの落語的見聞録 11月【1】 2024.10.17 神戸新聞朝刊連載より転記


「野球も選挙も米国が気になる」

神戸新聞NEXT

文 化

2024年(令和6年)
10月17日
木曜日

神戸新聞
www.kobe-nippon.jp



落語的見聞録

野球も選挙も米国が気になる

いやいや、日本の選手も一打ドジャースは山本士が大リーグで戦う時代に投手が本領発揮、これまたなるほど。ドジャースと素晴らしい投球内容だった。パドレスの地区シリーズをた。いよいよ次はメッツとテレビで観戦になった方も試合、ここにも千賀選手が多いのではないだろうか。

日本人対決が始まった。まだまだ楽しみが続く。このところアメリカの大リーグばかり見たためか、日本のプロ野球が何か、日本のプロ野球が何か。そして今、選挙の季節。アメリカでもまた日本でも衆議院選、兵庫県は知事選と、これまた大騒ぎ。こちらには選挙権もないのにアメリカの大統領選に迫力を感じた。それはまるで日本の野球の違ひを感じるのと少し似ている。やはり具体的に将来を見すえた内容ある論戦をしてほしいと思うのだが…。

落語「PI」は、選挙に立候補して何度も落選している西海シムムという男の癖。秘書は名前が悪い、最下位で沈むという名では当選するはずがないという。しかしの名は平家の一族で、西海に沈んだのだから仕方ない、またしても立候補、そして立会演説会で、マイクを握り、スピーカーから大きな音で社会性のない発言を繰り返す。

例えば老人ホームの前で「人生最後の一票は私、西海シムムに」。秘書が「先生の演説は全くダメ」「何が」「人生最後の…はホームの前ではダメ。その他にもハラスメントだらけのしゃべりはやめてください」「ごめんなさい」

「そこで先生、AIで、ヤバイ発言をしちゃうとPIと鳴って音を消すマイクを開発しました。これなら大丈夫」。そのマイクで西海さん、演説を始めると「PI」の連続、そして投票日、出口調査ではトップ、「当選間違いなし」と喜んでたが、最下位落選。投票用紙には「PI」としか書いてなかったそう。

（かつら・ぶんちん
落語家）

次回回は11月21日

10月には本当に 大リーグ 大谷選手の活躍と笑顔・日本選手の活躍と米国大統領選挙の話で、文珍さんがいのように、国内の話題が何か田舎の話題のようにかすんでしまいました。高度情報社会 何でもかんでもかんでも「デジタル」「スピード」。PC から AI へ。頭をきたえず、道具におんぶしてとんでもない方向に……。 文珍さんもそんなことを頭に浮かべたのでしょうか……。 また、アメリカは“アメリカ第一主義者”トランプ氏が大統領に。 日本は我が道を歩めるのだろうか… 世界も国内も世相は物価高が続く中 世相は混沌。しっかりとわが身を見つめねばと

「戻ってきて気になる」

神戸新聞NEXT

文 化

2024年(令和6年)
11月21日
木曜日

神戸新聞社
〒650-8571
神戸市中央区東川崎町1-5-7
www.kobe-np.co.jp



落語的見聞録



戻ってきて、さて今度は

やっど、というか、ついを委ねると、やってみました。知事選報道特番、ええとにしようか。兵庫県知事選挙が終わった。この数ヶ月あるがな、と、失礼な騒動は何だったのか。結局、前知事の斎藤元彦氏が激戦を制し、不信任決議を覆しての勝利となった。

しかし今回はオールドメディアと言われる既存の新聞やTVと、SNSの二ユースメディアとの激戦だったようにも見えた。時代を感じるの、中高年の方々もSNSなどで情報を入手しているということ。今回は何が何だかわからない、政策論争でなく信任、不信任だけの選挙のようにTVを見ていたら、知らない人がパンザイをしている。ん？と、よく見ると、栃木県知事の当選者だった。情報伝えてほしいのと同じに、投票者のおおの部分が考えて判断をしなければいけない時代、自分が問われる時代なのだと実感を、いつも阪神タイガースを、いつも九州吹き戻しほ、の試合で他局からリレー放送してくれる、また何度若旦那から身を持ちくずも以前見た時代劇の再放送を見て、おっ、という男の嘸。たい、持ち、チャンネル上げての末のたい、持ち、

借金の挙げ句、夜逃げ同様に江戸を出て、流れ流れて肥後は熊本に来た時には一文も無い。金のあるふりをして泊まった宿の名が江戸屋。この主人がまたま昔、湯島にいた古いなじみ。そこで料理番をしたり、たい、持ちをしたりして働いて、せつせとためた金が3年間で96両、あと4両で百両になれば、主人がのれん分けをしてやると言いが、望郷の念断ちがたく、饞別をもらい江戸へ旅立つ。

船で江戸へ向かうが、玄界灘で嵐に遭い、命からがら打ち上げられたのが薩摩は桜島。江戸まで400里、熊本から江戸は350里、帰りを急いで吹き戻されたい、という嘸。

今回、知事も吹き戻し、良い県政を願うばかり。(かつら・ぶんちん)落語家

次回回は12月19日

11月になっても一番の話題は 大谷選手の活躍とアメリカ トランプ。そして兵庫県選挙。文珍さんも兵庫県民。兵庫選挙の顛末を取り上げた。選挙戦がどうなるか全くわからない状態の中で前知事 斎藤元彦氏が復活当選。県民もまあ ホッとやれやれと。でも 選挙は終わったが、番外編。騒動はまだまだ収まりそうにない状態に。さて、どうなりますやら・・・ それにしても選挙無関心だった SNS 世代の投票参加での大逆転。インターネットの怖さをまざまざと。年寄りにすれば、オールドメディアと SNS どっちが信用できるのか？ TVにも証拠に残らぬインフルエンサー 影の情報提供者横行 本当につまらなくなりましたね。でも 「良くも悪くも これで若者の時代へ 大きく舵を切るのか？ 日本」とつくづく。文珍さんの落語は「九州吹き戻し」 旅の帰りを急いで 船を選択して 嵐に吹き戻されてしまった話。落語の話そっちのけで、兵庫県民 ついつい 日本・そして世界の世相の話に・・・